

vol.25

# START UP Company

今月の注目スタートアップ

ここで紹介するスタートアップ企業は、ふくおかフィナンシャルグループの投資会社 FFGベンチャービジネスパートナーズが運営するベンチャーファンドが投資しています。



## LAYERED

### LAYERED かかりつけ医の3つの機能とレイヤードの製品



#医療DXにてかかりつけ医を推進する

株式会社レイヤードは、「医療をもっと、わかりやすく」をPurposeに掲げ、かかりつけ医の医療DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するSaaSプロダクトを複数展開しています。WEB問診Symview<sup>シムビュー</sup>、電話自動応答システムIvber<sup>アイバー</sup>、クリニック向け動画サービスMedicatar<sup>メディカスター</sup>など、2,500施設以上の医療機関で利用いただいています。2022年7月には慢性疾患患者のフォローアップと治療の離脱防止を目的としたPRMツール(医療版CRM)Kakarite<sup>カカリテ</sup>をリリース。各種システムを通じて、医療者と患者双方の診療体験をスムーズにし、両者の円滑なコミュニケーションと医療現場・医療者の業務効率化の実現を目指します。

## 重症化予防の力を握る「かかりつけ医」の推進には医療DXが必要不可欠

2021年度の日本の医療費は、過去最高の44兆円となりました。また、コロナ禍では様々な医療情報を一か所に蓄積するかかりつけ医の重要性が改めて認識さ

れました。このような背景から、政府も本格的に医療DXの推進やかかりつけ医の機能強化を打ち出し、重症化予防に向けた動きが活発化しています。一方で、クリニックの現場の医師は多忙を極めており、かかりつけ医が患者の重症化予防などに積極的に関与していく時間が取れないという問題もあります。患者教育や生活習慣改善の指導を行っていくためには、医療現場の業務を圧倒的に効率化し、患者とのコミュニケーション機会を創出していく仕掛けが必要です。これが、単なるデジタル化にとどまらない、医療DXです。

**レイヤードが目指す医療DXは医療者・生活者双方の診療体験の向上を実現**

WEB問診Symviewは、来院前に患者が自分のスマートフォンを利用して症状を入力します。症状等の入力内容によってさらに深い質問が出現すること、また自宅で落ち着いて回答できることで、紙の問診と比べて詳細な問診を収集することが可能です。クリニックでは、詳細な問診を患者が来院する前に確認できることから、事前に必要な検査やカルテの準備ができるようになります。これにより患者の待ち時間が短縮されます。診察室では、電子カルテの入力が省力化できる分、医師は患者とのコミュニケーションに

集中できるようになります。さらに、PRMツールKakariteは、Symviewで収集した問診データはもちろん、レセプトデータ等の患者情報を一元管理し、患者属性に合わせたフォローアップを自動化できる仕組みをつくっています。これにより、医療者の業務効率化を実現しながら、院内・院外双方で患者とのコミュニケーションの機会を増やしていくことに貢献します。

## データを活用した医療提供を目指して

WEB問診Symviewをはじめ、レイヤードのプロダクトは、地方自治体や全国の医師会などでの利用も広がっています。このように公的機関も含めて、医療者と生活者・患者の情報をつなぐことで、病診連携やかかりつけ医と専門医との連携、地域包括ケアでの活用など、データドリブンの医療を推進し、医療の質の向上を目指してまいります。



会社概要

株式会社レイヤード

代表取締役社長 毛塚 牧人

所在地 福岡市博多区  
博多駅中央街8-27  
第16岡部ビル 5F

ホームページ <https://layered.inc/>

